

〇〇●●長野県環境保全研究所ニュース 平成22年(2010年)7月21日発行●●〇〇
安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415
飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929
http://www.pref.nagano.lg.jp/xseikan/khozen/index.htm Email: kanken@pref.nagano.lg.jp

A型肝炎患者の発生が全国的に増加しています

国立感染症研究所の発行する感染症週報の2010年第13週(3月29日～4月4日)版の注目すべき感染症として「A型肝炎」が取り上げられました。そこには「2010年のA型肝炎の報告数は、第10週以降急増しており、3月の報告数は2007年以降の各月の報告数と比較して最多であった。この増加傾向は第13週も続いている。」と記載されていました。全国のA型肝炎患者の報告数は2009年が1年間で計115件であったのに対し、2010年は第21週(5月30日まで)ですでに221件の報告がされています。また、2009年の患者報告数のピークは第22週の7件でしたが、2010年は第13週の26件と西日本を中心に多数報告されています(図)。さらに、第19週も24件の報告があるなど、日本全体を俯瞰してみると、まるで特定の原因によって集団感染症事例が引き起こされているかのごとくです。ちなみに、長野県内のA型肝炎患者の発生状況は、昨年は報告がありませんでしたが、今年は6月16日現在3件の報告がなされています。

A型肝炎は、A型肝炎ウイルス(HAV)の感染によって引き起こされる感染症で、経口感染症の一つです。経口感染とは、口を經由して病原体が身体の中に入って、感染することをいいます。A型肝炎患者は発病後2週間程度、糞便中にこのHAVを排泄します。そして、患者から排泄されたHAVによって汚染された、飲料水や食べ物をそのまま喫食したり、患者と接触したりすると、免疫のないヒトはHAVに感染してしまいます。

A型肝炎は普通の感染症と異なり、潜伏時間(病原体に感染してから症状が出るまでの期間)が2～7週間と非常に長いのが特徴です。例えば、第13週に発病したA型肝炎患者は何時HAVに感染した可能性が高いかという、発病の2～7週間前、つまり第6週～第11週の間(2月中旬～3月中旬)であったと推定できます(グラフ中←→)。このように、A型肝炎は潜伏期間が長いため、患者への聞き取り調査によって感染源となった食べ物などを特定するのは非常に困難です。このため、患者の糞便からウイルスをできる限り多く分離して、詳細な型別検査等を行い、感染源が同じなのかどうかを推定する必要があります。現在、全国で検出されたHAVの情報等は国立感染症研究所に集められ、解析が行われつつあります。当所においても、県内で報告のあった患者糞便からウイルスを検出し、その情報等を国立感染症研究所に提供しているところです。その結果、A型肝炎患者急増の原因が早期に解明され、発生予防対策に役立つことを願っています。

(吉田徹也 kanken-kansen@pref.nagano.lg.jp)

図 2009年および2010年の全国のA型肝炎患者の流行状況

